☆国語科教育法 I

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-411-13（J）	授業コード	O80220
科目名称	☆国語科教育法 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching Methods I			授業区分	講義
科目責任者	野中 潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して高等学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中 潤	【第 1 回】 予習 ：新しい学習指導要領に基づく各社の教科書（現代の国語、言語文化、論理国語、古典探究など）の概要を調べる 授業 ：これからの時代に向けて国語科教育に求められているもの 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
2	野中 潤	【第 2 回】 予習 ：「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の内容の構成や授業時数について確認する 授業 ：話すこと・聞くことの授業 1 （対話・グループワーク） 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
3	野中 潤	【第 3 回】 予習 ：高等学校の各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数について確認する 授業 ：文学的な文章を読むことの授業（クラウド共有ファイルによる協働的な学び） 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
4	野中 潤	【第 4 回】 予習 ：クラウド共有ファイルに書き込まれた他の受講生の「問い立て」を確認する 授業 ：文学的な文章を読むことの授業（問いと答えのワークショップ） 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
5	野中 潤	【第 5 回】 予習 ：場面ごとの主たる発問に対する答えを考える 授業 ：問いを立てて考える学び（グループワーク） 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
6	野中 潤	【第 6 回】 予習 ：漢字テストの採点基準についての動画を視聴する 授業 ：AI を活用した学習活動のデザイン（グループワーク） 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
7	野中 潤	【第 7 回】 予習 ：事前課題アンケートに回答する 授業 ：話すこと・聞くことの授業 2 （対話・グループワーク） 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる
8	野中 潤	【第 8 回】 予習 ：哲学対話で得られた考えを文章にまとめる 授業 ：対話で得られた考えを発表する 復習 ：講義ノートに学習内容をまとめる

9	野中　潤	【第 9 回】 予習　：文部科学省のサイトで資料を探す 授業　：文部科学省の資料を読む・見る（ABD・ワークショップ） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
10	野中　潤	【第 10 回】 予習　：板書の基本的な技能について調べる 授業　：板書・発問・プリント作成の方法（ジグソー法・グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：担当テーマのスライドを作成する 授業　：板書・発問・プリント作成の方法を動画にまとめる（エキスパート活動・グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：他の受講生の動画を視聴する 授業　：板書・発問・プリント作成の実験・実践 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：新しい学習指導要領に基づく高等学校の教科書を図書館で閲覧する 授業　：任意の科目の教科書を観点を決めて精読し、ポイントをまとめる（グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：他のグループがまとめた内容を参照しながら、図書館で教科書の内容を再確認する 授業　：模擬授業で取り上げたいものを選び、教材研究する（個人ワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：これまでの授業を振り返り、講義ノートを整理する 授業　：これからの時代に求められる授業を実践するために必要なこと 復習　：講義ノートに学習内容をまとめ、半期の授業をふりかえる

授業開始前学習	１人１台端末の整備や生成 AI の利活用に関する取り組みなど、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-411-13（J）	授業コード	O80240
科目名称	国語科教育法Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのかを実践的に学ぶ。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、高等学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第1回】 予習　：高等学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について調べる 授業　：指導案の基本的な書き方（課題解決型学習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第2回】 予習　：指定された高等学校国語科の教材について調べる 授業　：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第3回】 予習　：授業プランを書く 授業　：単元指導計画の検討（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第4回】 予習　：本時案の草案を作る 授業　：シナリオ型指導案の作成（発表） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第5回】 予習　：補助教材を作る 授業　：補助教材の検討（ディスカッション） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第6回】 予習　：単元指導計画と本時案を作成する 授業　：模擬授業のシミュレーション（発表） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
7	野中　潤	【第7回】 予習　：古文の模擬授業の準備をする 授業　：古文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
8	野中　潤	【第8回】 予習　：漢文の模擬授業の準備をする 授業　：漢文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
9	野中　潤	【第9回】 予習　：評論文の模擬授業の準備をする 授業　：評論文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
10	野中　潤	【第10回】 予習　：物語文の模擬授業の準備をする 授業　：物語文の模擬授業（実習）

		復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：随筆の模擬授業の準備をする 授業　：随筆の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：模擬授業の問題点を見直す 授業　：模擬授業のふりかえり（対話） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：自分が担当した教材の導入を再検討する 授業　：導入の語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業　：授業の「まとめ」をデザインする（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業　：これからの国語科教育を考える 復習　：学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる

授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-411-13（J）	授業コード	O80260
科目名称	国語科教育法Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅢ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して中学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第 1 回】 予習　：中学校学習指導要領の国語科の改訂のポイントを調べる 授業　：国語科の特徴・特質をカードに書き出し、思考ツールを使って比較・分析してまとめる（発散→収束） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第 2 回】 予習　：国語科の特徴・特質について、他の受講生の考えをクラウド共有された資料で確認する 授業　：国語科の特徴・特質の小論文作成（協働作業によるパラグラフライティング・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第 3 回】 予習　：小論文で担当したパラグラフに関する録音用カードを作成する 授業　：小論文の音読カードを作成し、互いに視聴してフィードバックし合う（リレー形式のプレゼンスライド作成・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第 4 回】 予習　：「言語技術教育」について調べる 授業　：読み手が図形を再現できるような説明文を、読み手の立場に立って表現を整えながら作成する 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第 5 回】 予習　：「やさしい日本語」について調べる 授業　：「やさしい日本語」の学習（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第 6 回】 予習　：メディアリテラシーについて調べる 授業　：メディアリテラシーに関する探究（ジグソー法・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
7	野中　潤	【第 7 回】 予習　：エキスパート課題について調べる 授業　：メディアリテラシーに関する課題をまとめる（ジグソー法・発表） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
8	野中　潤	【第 8 回】 予習　：メディアリテラシーのポイントをスライドにまとめる 授業　：メディアリテラシーについて学ぶ絵本の構成を考える（協働作業・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
9	野中　潤	【第 9 回】 予習　：絵本の担当ページのテキスト部分を作成する 授業　：メディアリテラシーについて学ぶ絵本を完成させる（協働作業・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
10	野中　潤	【第 10 回】 予習　：百人一首について調べる 授業　：ICT を活用した百人一首の授業デザイン

		復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：担当する歌について調べる 授業　：百人一首カルタの取り札と読み札をつくる（個人ワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：取り札と読み札を確認する 授業　：ロイロノート・スクールによる百人一首カルタ大会 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：公開されている文学的な文章の授業案を調べる 授業　：文学的な文章の授業案を検討する（ワークショップ） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：公開されている説明的な文章の授業案を調べる 授業　：説明的な文章の授業案を検討する（ワークショップ） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：次期中学校学習指導要領の国語科の検討内容を再確認する 授業　：講義ノートの相互閲覧によるふりかえり 復習　：学習内容を講義ノートにまとめ、半期の授業全体をふりかえる

授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-411-13（Ｊ）	授業コード	O80280
科目名称	国語科教育法Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅣ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのかを実践的に学ぶ。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、中学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第 1 回】 予習　：中学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業　：指導案の基本的な書き方 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第 2 回】 予習　：「中学国語」の教材を調べる 授業　：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第 3 回】 予習　：授業プランを作成する 授業　：単元指導計画の検討（ディスカッション） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第 4 回】 予習　：本時案の草案を準備する 授業　：シナリオ型指導案の作成 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第 5 回】 予習　：補助教材を作成する 授業　：補助教材の検討（ディスカッション） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第 6 回】 予習　：単元指導計画と本時案を完成させる 授業　：模擬授業のシミュレーション（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
7	野中　潤	【第 7 回】 予習　：古文の模擬授業の準備をする 授業　：古文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
8	野中　潤	【第 8 回】 予習　：漢文の模擬授業の準備をする 授業　：漢文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
9	野中　潤	【第 9 回】 予習　：評論文の模擬授業の準備をする 授業　：評論文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
10	野中　潤	【第 10 回】 予習　：物語文の模擬授業の準備をする 授業　：物語文の模擬授業（実習）

		復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：随筆の模擬授業の準備をする 授業　：随筆の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：模擬授業の問題点をふりかえる 授業　：模擬授業のふりかえり（ワールドカフェ方式） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：自分が担当した教材の導入を再検討する 授業　：導入の語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業　：まとめの語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業　：これからの国語科教育を考える 復習　：学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる

授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-411-13（J）	授業コード	O80300
科目名称	☆英語科教育法Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	English Teaching Methods Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	3年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 16:20～17:50　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1．英語科教育の目的について理解し、説明できる。 2．高等学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる。 3．高等学校の英語の指導法について理解し、説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第1回】 予習　：1年間の学びについて目標を立てる。 授業　：オリエンテーション（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野　達也	【第2回】 予習　：高校の英語の授業で行った活動を書き出す。 授業　：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返りから学んだことをノートにまとめる。
3	中野　達也	【第3回】 予習　：自分が使った高校の教科書を読む。 授業　：教科書分析（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：教科書分析を通して学んだことをノートにまとめる。
4	中野　達也	【第4回】 予習　：学習指導要領をインターネットで調べる。 授業　：学習指導要領の内容確認（変遷・目的）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学習指導要領について学んだことをノートにまとめる。
5	中野　達也	【第5回】 予習　：自分が受けた「コミュニケーション英語」の授業を振り返る。 授業　：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について学んだことをノートにまとめる。
6	中野　達也	【第6回】 予習　：自分が受けた「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について振り返る。 授業　：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について学んだことをノートにまとめる。
7	中野　達也	【第7回】 予習　：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業　：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。
8	中野　達也	【第8回】 予習　：授業中にどのような英語でのやりとりがあったか振り返る。 授業　：英語によるインタラクション方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：英語によるインタラクション方法について学んだことをノートにまとめる。
9	中野　達也	【第9回】 予習　：自分が受けたＡＬＴとのティーム・ティーチングについて振り返る。 授業　：ＡＬＴとのティーム・ティーチングについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：ＡＬＴとのティーム・ティーチングについて学んだことをノートにまとめる。

10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：自分が受けてきた授業形態について振り返る。 授業　：生徒の特性や習熟度への対応方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：生徒の特性や習熟度への対応方法について学んだことをノートにまとめる。
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：自分が使用した教材について振り返る。 授業　：教材研究方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：教材研究方法について学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：指導案の形式について調べ学習をする。 授業　：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究ついて学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：担当教員の指導案を予習する。 授業　：担当教員による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：担当教員による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：模擬授業のふりかえりをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：前期に習ったことをノートで振り返る。 授業　：高等学校の授業についての学びの総括（前期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期にどのように生かすかを考える。

授業開始前学習	自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくること。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-411-13（J）	授業コード	O80320
科目名称	英語科教育法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 高等学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2. 高等学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野 達也	【第 1 回】 予習 ：「英語科教育法Ⅰ」の授業を振り返る。 授業 ：前期の「英語科教育法Ⅰ」の復習（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野 達也	【第 2 回】 予習 ：高校の英語の授業を振り返る。 授業 ： 復習・導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：復習・導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。
3	中野 達也	【第 3 回】 予習 ：自分が使った高校の教科書を読む。 授業 ：文法・教科書本文導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：文法・教科書本文導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。
4	中野 達也	【第 4 回】 予習 ：自分が受けた語彙指導を振り返る。 授業 ：語彙指導の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：語彙指導の工夫について学んだことをノートにまとめる。
5	中野 達也	【第 5 回】 予習 ：自分が受けた英語の進め方を振り返る。 授業 ：授業展開の工夫、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：授業展開の工夫、教材研究について学んだことをノートにまとめる。
6	中野 達也	【第 6 回】 予習 ：教科書の内容を定着させるために工夫したことを整理する。 授業 ：定着活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：定着活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。
7	中野 達也	【第 7 回】 予習 ：自分が受けた ICT 機器を活用した英語の授業について振り返る。 授業 ：ICT 機器を活用した授業の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：ICT 機器を活用した授業の工夫について学んだことをノートにまとめる。
8	中野 達也	【第 8 回】 予習 ：模擬授業に向けた準備をする。 授業 ：模擬授業に向けた指導案作成の準備（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：模擬授業に向けた指導案作成の準備から学んだことをノートにまとめる。
9	中野 達也	【第 9 回】 予習 ：指導案作成の準備をする。 授業 ：模擬授業に向けた指導案作成 （グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。
10	中野 達也	【第 10 回】 予習 ：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅰ）の準備をする。 授業 ：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。

11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅱ）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：模擬授業（英語表現Ⅰ）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：模擬授業（英語表現Ⅱ）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：模擬授業（ALT とのティーム・ティーチング）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業⑤（ALT とのティーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業⑤（ALT とのティーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：前期に習ってきたことをノートで振り返る。 授業　：学生による模擬授業⑤（ALT とのティーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期の授業のまとめをする。

授業開始前学習	高等学校の英語の教科書と準拠 CD を使い、音読練習をすることが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-411-13（J）	授業コード	O80340
科目名称	英語科教育法Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅢ			授業区分	講義
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる 2. 中学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる 3. 中学校の英語の指導法について理解し、説明できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野 達也	【第 1 回】 予習 ：自分が受けた中学の授業を振り返り、記憶に残っている活動をノートにまとめる。 授業 ：自分の受けてきた中学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野 達也	【第 2 回】 予習 ：中学の英語の授業を振り返る。 授業 ：新旧学習指導要領の違いについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：新旧学習指導要領の違いについて学んだことをノートにまとめる。
3	中野 達也	【第 3 回】 予習 ：自分が使った教科書を読む。 授業 ：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）で学んだことをノートにまとめる。
4	中野 達也	【第 4 回】 予習 ：Classroom English を書き出す。 授業 ：Classroom English を使った学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：Classroom English を使った学生による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。
5	中野 達也	【第 5 回】 予習 ：自分が受けた中学 1 年の英語の授業を振り返る①。 授業 ： 中学 1 年の授業（導入）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：中学 1 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。
6	中野 達也	【第 6 回】 予習 ：自分が受けた中学 1 年の英語の授業を振り返る②。 授業 ：中学 1 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：中学 1 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。
7	中野 達也	【第 7 回】 予習 ：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る①。 授業 ：中学 2 年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの提出（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：中学 2 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。
8	中野 達也	【第 8 回】 予習 ：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る②。 授業 ：中学 2 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：中学 2 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。

9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：自分が受けた中学 3 年の英語の授業を振り返る①。 授業　：中学 3 年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの講評　（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 3 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。
10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る②。 授業　：中学 3 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 3 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業　：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：自分が受けた音声指導・音読指導について振り返る。 授業　：音声指導・音読指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：音声指導・音読指導について学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：指導案の形式について調べ学習をする。 授業　：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究について学んだことをノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：教師が作成した指導案を予習する。 授業　：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：教師による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：前期に習ってきたことをノートで振り返る。 授業　：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期にどのように生かすかを考える。

授業開始前学習	自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくること。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-411-13（J）	授業コード	O80360
科目名称	英語科教育法Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅣ			授業区分	講義
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 16:20～17:50　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1．中学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2．中学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：観点別評価について調べ学習する。 授業　：学習到達目標・観点別評価について考える（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学習到達目標・観点別評価について授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：　アクティブ・ラーニングについて調べ学習する。 授業　：　アクティブ・ラーニングの取り入れ方について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：アクティブ・ラーニングの取り入れ方について学んだことをノートにまとめる。
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：４技能５領域について調べ学習する。 授業　：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の５領域を統合した授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の５領域を統合した授業について学んだことをノートにまとめる。
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：自分が受けた授業ではどれくらい英語が使用されていたか振り返る。 授業　：英語で行う授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：英語で行う授業方法について学んだことをノートにまとめる。
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：自分が受けた ALT との team teaching の授業を振り返る。 授業　：ALT との team teaching の方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：ALT との team teaching の方法について学んだことをノートにまとめる。
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：自分が受けた ICT を使った授業について振り返る。 授業　：ICT を使った授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：ICT を使った授業方法について学んだことをノートにまとめる。
7	中野　達也	【第 7 回】 予習　：年間指導計画の立て方について調べ学習する。 授業　：年間指導計画の作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：年間指導計画の作成について学んだことをノートにまとめる。
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：自分が受けてきた英語の授業について振り返る 授業　：評価方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：評価方法について学んだことをノートにまとめる
9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：指導案作成の準備をする。 授業　：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究について学んだことをノートにまとめる。

10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：指導案作成の準備をする。 授業　：学生による模擬授業に向けた指導案作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：中学 1 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業①（中学 1 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業①（中学 1 年生対象）から学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：中学 2 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業②（中学 2 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業②（中学 2 年生対象）ついて学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：中学 3 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業③（中学 3 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業③（中学 3 年生対象）から学んだことについてノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：ティーム・ティーチングによる模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業④（ティーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業④（ティーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：後期に学んだことをノートで振り返る。 第 15 回　中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 授業　：中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期のまとめをする。

授業開始前学習	中学校、高等学校の英語教科書を CD を使いながら音読練習等をする。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	ディスカッション・模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13	授業コード	O80640
科目名称	介護等の体験			単位数	2.0 単位
英文名称	Care Work Experience			授業区分	講義
科目責任者	岡本　茉桜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡本　茉桜			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校教諭の免許状取得希望者は「介護等の体験」を受講する必要があります。本授業では、「介護等の体験」の意義を理解するとともに、必要な知識と行動規範を身につけることを目的とします。 具体的には、なぜ本体験が必要なのか（意義）、社会福祉施設や特別支援学校はどのような場所なのか（知識）、体験ではどのような振る舞いが必要なのか（行動規範）などを取り上げます。また、本授業や体験を通して、介護等体験の目的の 1 つである、個人や集団間に存在する様々な違い（多様性）について理解し、考えを深めていただきたいと思います。				
到達目標	・中学校教諭の免許状取得に必要な”介護等体験”の位置づけを理解し、説明できるようになる。 ・ダイバーシティとインクルージョンの定義を理解し、説明できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う施設の種類と施設利用者の特徴を理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う上での行動規範について理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」に必要な書類等の種類と提出期限を把握し、準備する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	岡本　茉桜	【第 1 回】 予習　：　介護等体験特例法について調べる 授業　：　介護等の体験の位置づけと意義、心得 復習　：　介護等の体験の位置づけと意義、心得について整理する
2	岡本　茉桜	【第 2 回】 予習　：　ダイバーシティとインクルージョンについて調べる 授業　：　ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について考える（ディスカッション） 復習　：　ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について整理する
3	岡本　茉桜	【第 3 回】 予習　：　日本の社会保障制度について調べる 授業　：　社会保障について考える（ディスカッション） 復習　：　社会保障の良い点と課題について整理する
4	岡本　茉桜	【第 4 回】 予習　：　社会福祉施設の種類について調べる 授業　：　社会福祉施設について（1）～高齢期のエイジング～ 復習　：　高齢社会の現状と課題について整理する
5	岡本　茉桜	【第 5 回】 予習　：　社会福祉施設利用者のケアについて調べる 授業　：　社会福祉施設について（2）～施設利用者のケア～ 復習　：　社会福祉施設利用者のケアのポイントについて整理する
6	岡本　茉桜	【第 6 回】 予習　：　障害の定義や種類について調べる 授業　：　障害ついて考える（ディスカッション） 復習　：　障害にまつわる知識について整理する
7	岡本　茉桜	【第 7 回】 予習　：　知的障害について調べる 授業　：　特別支援学校について（1）～知的障害教育～ 復習　：　知的障害教育の要点について整理する
8	岡本　茉桜	【第 8 回】 予習　：　聴覚障害について調べる 授業　：　特別支援学校について（2）～聴覚障害教育～ 復習　：　聴覚障害教育の要点について整理する

9	岡本　茉桜	【第 9 回】 予習　：　視覚障害について調べる 授業　：　特別支援学校について（３）～視覚障害教育～ 復習　：　視覚障害教育の要点について整理する
10	岡本　茉桜	【第 10 回】 予習　：　肢体不自由・病弱について調べる 授業　：　特別支援学校について（４）～肢体不自由・病弱教育～ 復習　：　肢体不自由・病弱教育の要点について整理する
11	岡本　茉桜	【第 11 回】 予習　：　発達障害について調べる 授業　：　発達障害について考える～ASD・ADHD・LD～ 復習　：　発達障害支援の要点について整理する
12	岡本　茉桜	【第 12 回】 予習　：　社会福祉施設について調べ、プレゼン資料を作成する 授業　：　調べ学習（１）～社会福祉施設～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：　社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する
13	岡本　茉桜	【第 13 回】 予習　：　特別支援学校について調べ、プレゼン資料を作成する 授業　：　調べ学習（２）～特別支援学校～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：　社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する
14	岡本　茉桜	【第 14 回】 予習　：　その他関連学級について調べ、プレゼン資料を作成する 授業　：　調べ学習（３）～その他関連学級～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：　特別支援学校での体験に向けて、心構えについて整理する
15	岡本　茉桜	【第 15 回】 予習　：　体験先へ提出する書類を確認する、実際の体験施設について基本情報を調べる 授業　：　実際の体験に向けて～提出書類と体験日程の確認、体験にあたっての注意事項～ 復習　：　今後の流れ、手続き、及びスケジュールを確認し、実行する

授業開始前学習	オリエンテーションでの内容を踏まえ、本授業で何を学びたいか自分なりに整理してください。また、「介護等体験特例法」について調べ、「介護等の体験」の成り立ちや対象について知りましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課すショートレポート等は、次回以降の授業内で取り上げます。
テキスト・教材	授業資料はパワーポイントで作成し、適宜配布します。
参考書	全国特別支援学校長会他（編著）『介護等体験ガイドブック　新フィリア』（ジアース教育新社） 橋本創一他（編著）『教職課程コアカリキュラム対応版　特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』（福村出版）
評価の基準と方法	プレゼンテーション<30%>、期末レポート<30%>、授業への取り組み姿勢（リアクションペーパーの提出状況・グループワークへの参加度など）<40%>を総合的に判断し、評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				○	◎

関連科目	
その他	授業の進め方や内容については、受講学生の興味関心等に応じて適宜変更する可能性があります。その場合は、授業内にて別途指示を出します。また本授業では、プレゼンテーションやディスカッション等を予定しています。履修者はそのつもりで参加してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80660
科目名称	☆視聴覚教育ﾒﾃﾞｨｱ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Audiovisual Media Education			授業区分	講義
科目責任者	明田川　紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川　紀彦			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	この授業は、視聴覚教育の歴史や教育方法について考え、その意義や教材およびメディアの関係性や重要性を知り、日本における視聴覚教育の始まりや定義、視聴覚教材の長所短所を検討します。教育現場での活用方法のみならず、博物館の学芸員として必要な事柄も学んでいきます。授業は、下記に記したテキストを中心に据え、受講生が模擬授業形式を通して問題解決型学習で進めていきます。この授業では、発表及びグループ・ディスカッションを行います。				
到達目標	教育の場で活用する視聴覚機器（テレビ、ＤＶＤ、スライド、映画等）、情報機器（ＰＣ、Ｗｅｂ等）などの教育メディアについて、その機能や種類、利用方法を身につけます。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川　紀彦	予習　：テキストに目をとおして概要を見ておく。 授業　：オリエンテーション（この授業の目的と授業に対する姿勢、授業の進め方）、「１．視聴覚教育の意味」（テキストｐ1-4） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚教育に関連した事項を調べて追加記入する。
2	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ4-20）に目をとおして、関連した人物や事柄に関して考えておく。 授業　：「２．視聴覚教育の源流」～「５．視聴覚教育の定義」（テキストｐ4-20）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、関連した人物や事柄に関して調べて追加記入する。
3	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ20-33）に目をとおして、歴史的流れに関して考えておく。 授業　：「６．視聴覚教育の動向」～「１．教育メディアの種類と選択」（テキストｐ20-33）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、歴史的流れに関して調べて追加記入する。
4	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ33-50）に目をとおして、視聴覚機器に関して考えておく。 授業　：「２．非投映系視覚メディア」～「６．放送メディア」（テキストｐ33-50）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器に関して調べて追加記入する。
5	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ50-64）に目をとおして、視聴覚機器の変遷に関して考えておく。 授業　：「７．コンピュータと通信メディア」～「１．メディア概説」（テキストｐ50-64）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器の変遷に関して調べて追加記入する。
6	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ65-79）に目をとおして、各自のこれまでのメディアを使っての教育内容に関して考えておく。 授業　：「２．メディアについての教育」（テキストｐ65-79）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、各自のこれまでのメディアを使っての教育内容に関して調べて追加記入する。
7	明田川　紀彦	予習　：これまでの内容をノートにまとめておく。 授業　：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-1（個人作業） 復習　：本日の内容を踏まえ、ノート提出の準備をする。
8	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ79-96）に目をとおして、メディア教育と博物館展示に関して考えておく。 授業　：「３．メディア教育の内容と今後」～「１．博物館と展示・教育事業」（テキストｐ79-96）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、メディア教育と博物館展示に関して追加記入する。
9	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ96-111）に目をとおして、展示方法の違いに関して考えておく。 授業　：「２．博物館の資料」～「４．視聴覚メディアの展望」（テキストｐ96-111）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、展示方法の違いに関して調べて追加記入する。
10	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ112-125）に目をとおして、映像情報の認知方法に関して考えておく。 授業　：「１．映像・イメージ」～「２．映像情報の認知」（テキストｐ112-125）（発表及びグループ・ディスカッション）

		復習　：本日の内容をノートにまとめ、映像情報の認知方法に関して調べて追加記入する。
11	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ125-140）に目をとおして、映像メディアによる教育的効果に関して考えておく。 授業　：「３．教育における映像の効果-実証的諸研究を通して」～「４．映像・イメージと教育」（テキストｐ125-140）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、映像メディアによる教育的効果に関して調べて追加記入する。
12	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ141-148）に目をとおして、コンピュータの変遷に関して考えておく。 授業　：「１．コンピュータの発展とデジタル処理」（テキストｐ141-148）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、コンピュータの変遷に関して調べて追加記入する。
13	明田川　紀彦	予習　：テキスト（ｐ148-161）に目をとおして、教育の情報化に関して考えておく。 授業　：「２．マルチメディア対応のコンピュータ」～「４．生涯学習と情報通信ネットワーク」（テキストｐ148-161）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、教育の情報化に関して追加記入する。
14	明田川　紀彦	予習　：これまでの内容をノートにまとめたものを確認する。 授業　：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-2（グループ・ワーク） 復習　：これまでの内容をノートにまとめ、必要事項を調べさらに追加記入し、次回の提出に備える。
15	明田川　紀彦	予習　：本日の提出に備え、これまでの内容のまとめを再検討する。 授業　：ふりかえりとまとめ（グループ・ワーク及びグループ・ディスカッション） 復習　：これまで学んできた事項で、気になったことに関して再度調べ、より理解を深める。

授業開始前学習	教職を取る学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	発表（プレゼン）は、その時点で個別の講評を行う。またレポート課題は、個々の内容を充実させる目的で、学生の相互評価と全体の講評を行います。
テキスト・教材	プリントと関連資料は、Google クラスルームにアップします。
参考書	「改訂　視聴覚メディアと教育」（佐賀啓男著、樹村房）
評価の基準と方法	発表（30%）、定期試験（30%）、質疑応答等への積極性（10%）、授業態度（10%）ノート提出（10%）、毎回のリアクションペーパーへのコメント（10%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	
その他	遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80080
科目名称	発達心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental Psychology			授業区分	講義
科目責任者	丸山　慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　慎			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	本講義では、「生涯発達心理学」という視点から人間の発達を広く連続的に捉えつつ、特にその基盤となる乳児期から青年期にかけての人間の発達に関する基本的な知見を学ぶ。また幼児、児童および生徒の発達に関しては、集団への適応と学習への適応と学習の課程及び現代の教育現場が抱える問題について心理学的な観点から考察を行う。				
到達目標	発達心理学のロジックを理解し、それをもとにして乳幼児期から青年期にかけての人間の身体的、精神的そして社会的な発達および学習の過程に関する知識を正確に習得することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　慎	【第 1 回】 予習　：特に課さない 授業：教科への導入「人間の発達とは何か：発達心理学という研究領域について」 復習　：特に課さないが履修のモチベーションを各自確認すること
2	丸山　慎	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.1-7）の講読と疑問点の抽出 授業：発達初期の能力を測る方法：選考注視法、馴化･脱馴化法を中心に 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
3	丸山　慎	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.7-14、p.104）の講読と疑問点の抽出 授業：発達心理学の主要な理論①「認知発達」：ピアジェ、ヴィゴツキー等 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
4	丸山　慎	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.14-19, p.116-122, p.130-136）の講読と疑問点の抽出 授業：発達心理学の主要な理論②「社会性の発達」：エリクソン、コールバーグ、アイゼンバーグ等 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
5	丸山　慎	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.23-33）の講読と疑問点の抽出 授業：人間の知覚･運動･認知の発達 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
6	丸山　慎	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.33-43）の講読と疑問点の抽出 授業：愛着の形成及び三項関係の発達 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
7	丸山　慎	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.46-54）の講読と疑問点の抽出 授業：表象とことばの獲得 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
8	丸山　慎	【第 8 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.54-63）の講読と疑問点の抽出 授業：他者のこころを推量する：「こころの理論」とは何か 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
9	丸山　慎	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.64-65、p.68-84）の講読と疑問点の抽出 授業：自己意識の発達と自己抑制 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと

10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 ：教科書の該当箇所（p.87-99）の講読と疑問点の抽出 授業：思考の深まりと社会性の発達（集団づくり・友人とのかかわり） 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 ：教科書の該当箇所（p.99-105、p.108-116）の講読と疑問点の抽出 授業：学校における児童・生徒の学習①：学習への動機づけと学力の問題 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 ：教科書の該当箇所（p.116-122、p.125-135、p.146-162）の講読と疑問点の抽出 授業：学校における児童・生徒の学習②：教師と生徒の関係における変化及び評価 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 ：参考資料の確認と疑問点の抽出 授業：障害のある児童・生徒の発達と支援①：障害の理解と教育的な働きかけについて 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 ：参考資料の確認と疑問点の抽出 授業：障害のある児童・生徒の発達と支援②：支援組織についての理解〈家族・地域・専門機関〉 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 ：これまでに参照した教科書の該当箇所および参考資料を読み返しておくこと 授業：講義の総括 ：児童・生徒の身体的、精神的、社会的発達を見守り、導き、支えるために 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと

授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書に目を通しておくことを勧めたい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を実施した次の授業の冒頭に課題に対して概評を与え、前回の授業内容を振り返る。
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学［第 2 版］：周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか』ミネルヴァ書房，2020 年刊
参考書	・無藤 隆・中坪史典・西山 修（編著）『発達心理学』ミネルヴァ書房，2010 年刊 ・岡本祐子・深瀬裕子（編著）『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房，2013 年刊 ・三浦香苗・村瀬嘉代子・西林克彦・近藤邦夫（編著）『発達と学習の支援』新曜社，2000 年刊
評価の基準と方法	平常点 30%（授業参加点 20%・小レポート 10%）と期末試験 70%を総合して最終的な評価とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80370
科目名称	特別支援教育概論			単位数	1.0 単位
英文名称	Introduction to Special Education			授業区分	講義
科目責任者	金森　克浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金森　克浩			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育について、理念、制度及び障害種別の現状を講述する。その上で、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築について概説する。テーマについてディスカッションを行なう。				
到達目標	1.特別支援教育に関する動向のポイントを説明できる。 2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	8 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	金森　克浩	【第 1 回】 予習：特別支援教育とはどういうものか調べる 授業：特別支援教育の理念と制度 復習：特別支援教育の理念について整理する
2	金森　克浩	【第 2 回】 予習：通常の学級の中で児童生徒がどのような困り感があるかを考える 授業：インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒 復習：インクルーシブ教育システムについて整理する
3	金森　克浩	【第 3 回】 予習：通常の学級以外でどのような教育課程があるかを調べる 授業：特別支援教育の教育課程 復習：特別支援教育における教育課程の内容を整理する
4	金森　克浩	【第 4 回】 予習：個別の指導計画とは何かを調べる 授業：個別の教育支援計画と個別の指導計画 復習：学習指導要領において個別の教育支援計画と個別の指導計画がどのように扱われているか整理する
5	金森　克浩	【第 5 回】 予習：どのような特別支援学校があるかを調べる 授業：障害児の理解と教育（1）視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱 復習：特別支援学校の教育内容を整理する
6	金森　克浩	【第 6 回】 予習：学習障害とは何かを調べる 授業：障害児の理解と教育（2）学習障害 復習：学習障害のある子どもの指導について整理する
7	金森　克浩	【第 7 回】 予習：ADHD や ASD とは何か調べる 授業：障害児の理解と教育（3）注意欠陥・多動性障害、言語障害、自閉症・情緒障害 復習：発達障害のある子どもの指導について整理する
8	金森　克浩	【第 8 回】 予習：障害のある子どもの困難さは何かを考える 授業：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築 復習：共生社会の形成のためにどのような事が大切かを整理する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業終了後に提出するコメントシートには次週の講義に回答する。
テキスト・教材	特になし。授業時に関係資料を配付する。

参考書	廣瀬由美子、石塚謙二　編著『特別支援教育』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』（海文堂出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則編』（教育出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』（教育出版）							
評価の基準と方法	授業内課題(コメントシート)35 点、最終講義テスト 65 点							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 30 時間（4 時間×7.5 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80500
科目名称	☆教育方法・技術／教育ﾒﾃﾞｨｱの研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Education Techniques and Technology			授業区分	講義
科目責任者	八木　浩雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木　浩雄			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「教育」という観点から、学校教育の意味を理解し、その上で「教育の方法」についての在り方を学んでいく。また、今日の社会は「知識基盤社会」と称されることから、私たちの生活上欠かせない情報メディアと教育現場の在り方等についても注目していく。特に授業内での情報メディア機器の活用を通して、教員としての情報メディアの活用の事例を考える機会に生かしていきたいと思う。				
到達目標	今日の社会がどのようなものであるのかを各自で分析（課題発見）し、その上で適切な学校教育上の方法を理解し模索する姿勢（問題解決）・方法・技術を身に付けて行く。 特に、子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現＝アクティブ・ラーニング）を理解していく。 また、情報メディア機器の特性を理解し、ICT を学校教育上で活用していく方法を自身の担当科目の特性を踏まえて模索していく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	八木　浩雄	【第 1 回】 予習　：簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業　：オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、「教育」とは？　（問題意識の確認） 復習　：「教育」とは何であるか（「教育」とその「方法」の問題意識の確認）
2	八木　浩雄	【第 2 回】 予習　：前回授業の内容の確認（小レポート内容の把握） 授業　：「教育」とは（「教育」と「学校教育」） 復習　：「教育」の意味を踏まえた上での、日頃の取り組みについての振り返り
3	八木　浩雄	【第 3 回】 予習　：前回授業の内容の確認（「教育」の意味するところの理解と「学校」の意義） 授業「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）-教育史概観①：歴史を学ぶ意義 復習　：世界史の把握
4	八木　浩雄	【第 4 回】 予習　：前回授業の内容の確認（世界史特に西洋の歴史の把握（高校での世界史程度）） 授業　：「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）-教育史概観②：教育についての変遷（西洋史より） 復習　：世界史の把握（時代・社会の変化と「教育」の関係について）
5	八木　浩雄	【第 5 回】 予習　：前回授業の内容の確認（古代?中世?近世・近代?現代までの特色） 授業　：「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）?教育史概観③：教育思想の視点から? 復習　：教育思想家のポイント等の整理（「教育史」から今日的問題へ）
6	八木　浩雄	【第 6 回】 予習　：前回授業の内容の確認（今日までに形成された「教育」的視点と方法の把握） 授業　：教育方法と学習（授業を構成する基礎的要件、教授＝学習の関係） 復習　：「教授」・「学習」・「陶冶」等の整理
7	八木　浩雄	【第 7 回】 予習　：前回授業の内容の確認（「教育」≠「伝達」ではないことの理解） 授業　：今日の社会状況と教育課題（教育方法の在り方（アクティブ・ラーニング）について） 復習　：学校教育における「生きる力」について
8	八木　浩雄	【第 8 回】 予習　：前回授業の内容の確認（基本的な PC 操作の理解） 授業　：情報メディアと教育方法・学習について①-ICT 教育と学習環境（情報機器の基礎的活用） 復習　：「生きる力」と「知識基盤社会」について

9	八木　浩雄	【第 9 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：情報メディアと教育方法・学習について②-情報メディアの活用と教育方法（授業を視野に入れた適切な活用） 復習　：情報メディアと子どもに関するニュース等の確認
10	八木　浩雄	【第 10 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：情報メディアと教育方法・学習について③-教材研究と「知識基盤社会」（情報モラルを含む教育方法な在り方について） 復習　：情報メディアは「子ども」たちにとっての教材であるかどうかの考察
11	八木　浩雄	【第 11 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：教育方法の考案と実践①（学習評価の基礎的な考え方とアクティブ・ラーニング）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：教育課程の構造の復習
12	八木　浩雄	【第 12 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：教育方法の考案と実践②（自己研鑽と協同、学習評価の基礎的な考え方））（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：学習指導要領等に記載されている内容との確認
13	八木　浩雄	【第 13 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：教育方法の考案と実践③（教育実践の情報の蓄積と活用上の留意点））（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：記録化の重要性（PDCA サイクルを踏まえて）とその際の留意点の再整理
14	八木　浩雄	【第 14 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：今後の教育の在り方について（これまでの内容の補足を含む））（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：様々な視点から物事を捉える姿勢の確認
15	八木　浩雄	【第 15 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：授業のまとめ（11 回目～14 回目までの活動の予備日としても使用する） 復習　：今後の自身の課題について

授業開始前学習	「教育」という営みについての自分なりのイメージを持って授業に臨んでほしい。 また、授業後半で情報メディア機器を使用することから、自身のコンピュータやスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。 その意見に応じて、次の授業のスライド（板書）等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。受講生の人数に応じて発表内容や扱うメディア（iPad 等の使用）を調整していきたいと思う。
テキスト・教材	1 回目の授業以降、テキストに応じたプリント資料を配布する。
参考書	参考書・参考資料等 中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	評価に当たっては、授業内課題（授業中の取組み・発表を含む、50%）と提出課題（レポート、50%）を総合して、60%以上の評価を受けた者が単位認定となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「教育」に関する科目並びに教職系科目と大いに関連する。また、教育方法の歴史を扱う際に、世界史の知識を必要とする。
その他	毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。 「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、用意してもらう場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-23（J）	授業コード	O80540
科目名称	教育実習指導			単位数	1.0 単位
英文名称	Teaching Practice Guidance			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 16:20～17:50　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	次年度教育実習に行く前段階として、教員に必要な識見、態度、技能を得るための学習を行う。				
到達目標	教育実習の意義を認識し、実習時の実践的指導に必要となる基礎的な指導力を身につける。 教育実習における注意点を自分のことばで説明することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：01/02/03 を読み、ポイントをまとめる。 授業　：01/02/03 「教育実習って、何だろう？」「教育実習の服装や持ち物は？」「　教育実習までの流れは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：自分の教育実習の目的と意義をまとめる
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：04/05/06 を読み、ポイントをまとめる。 授業　：04/05/06「実習校はどう選ぶ？」どのように決まる？」「事前打ち合わせでは、どんなことをする？」「礼儀・マナーに自信がないのですが？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：自分の教育実習の心得をまとめる
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：07/08/09 を読み、ポイントをまとめる 授業　：07/08/09 「クラスの子どもたちに、どう接したらいい？」「先生方とのコミュニケーションはどうとる？」「初日をどう迎える？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：生徒、教員とのコミュニケーションの取り方についてまとめる
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：10/12/13/14 を読み、ポイントをまとめる 授業　：10/12/13/14 「朝の会・帰りの会はどうしたらいい？」「学級経営のポイントは？」「給食指導って、どうするの？」「部活動や学校行事への参加は？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：授業外の指導についてまとめる
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：15 を読み、ポイントをまとめる 授業　：15 「教育実習、こんなときはどうする？」事例に基づいた討論（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：具体的事例についてまとめる
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：16 を読み、ポイントをまとめる 授業　：16「教育実習はどこを、どう評価される？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：教育自習の評価についてまとめる
7	中野　達也	【第 7 回】 予習　：25/29 を読み、ポイントをまとめる 授業　：25/29「国語科の指導案はどう書くの？」「英語科の指導案はどう書くの？」駒沢学園女子中学・高等学校見学の準備　（教科指導）」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：教科指導の注意点をまとめる
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：学校見学時の自分の課題を見つける 授業　：駒沢学園女子中学・高等学校見学　※状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習　：学校見学時に発見した自分の課題をまとめる

9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：30/31 を読み、ポイントをまとめる 授業　：30/31 「「総合的な学習の時間」の指導法は？」「教育実習にはどんなプロセスがある？」 学校見学についてのレポート提出（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：専門教科以外の科目についてまとめる
10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：32/33/34 を読み、ポイントをまとめる 授業　：32/33/34　「板書を上手に書くには？」「授業での発問と指名のポイントは？「ノート指導・机間指導のポイントは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：具体的指導方法についてまとめる
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：35/36 を読み、ポイントをまとめる 授業　：35/36 「情報機器を使いこなすには？」「授業で配布するプリントはどう作ればいい？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：ICT の活用法・教材研究の意義をまとめる
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：37/38 を読み、ポイントをまとめる 授業　：37/38「これで安心！研究授業の準備と心得」「研究授業の反省会、気をつけるべきことは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：研究授業についてまとめる
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：39/41/42/43 を読み、ポイントをまとめる 授業　：39/41/42/43「実習日誌には、何をどう書けばいい？」「実習日誌がなかなか書けない！」「よりよい実習日誌を書くためのポイントは？」「実習日誌のまとめはどう書けばいいの？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：実習の振り返り方についてまとめる
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：45/46/47/48/49/50 を読み、ポイントをまとめる 授業　：45/46/47/48/49/50「教員採用試験って、どんな試験？」「教員の待遇は？」「教員採用試験の攻略法は？」「一般教養の勉強法方法は？」「教職教養の勉強方法は？」「私学適性検査とは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：教員採用試験に向けた取り組みについてまとめる
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：後期の学びを振り返る 授業　：「教育実習に臨むにあたり、どのような実習にしたいか決意を述べる」 討論（グループワーク）（ディスカッション）（発表）・後期のまとめ 復習　：4 年次の実習に向け、自己研鑽課題をまとめ、教育実習に備える

授業開始前学習	既修得の教育職員養成課程科目の教科書及び実際の中学校・高等学校の現場を理解できるような本を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別にフィードバックを行い、指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	「教育実習完璧ガイド」 宮崎猛・小泉博明編著　小学館
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）３０%、レポート３０%、定期試験４０%を総合して評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	△

関連科目	
その他	遅刻、無断欠席は認めない。 中学校・高等学校見学について、詳細な実施日程は講義開始後に決定する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-24（J）	授業コード	O80600
科目名称	教育実習Ⅰ(中学校)			単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Practice Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 16:20～17:50　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。				
到達目標	・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。
2	中野　達也	【第 2 回】 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。
3	中野　達也	【第 3 回】 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの講評 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 　教
4	中野　達也	【第 4 回】 実習終了 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。
5	中野　達也	【第 5 回】 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。 ・実習校にお礼状を書く。

授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。

テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう、注意深く考えて行動すること。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-24（J）	授業コード	O80620
科目名称	☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校)			単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching PracticeⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 16:20～17:50　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。				
到達目標	・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。
2	中野　達也	【第 2 回】 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。
3	中野　達也	【第 3 回】 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの報告 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 　教
4	中野　達也	【第 4 回】 実習終了 ・実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。
5	中野　達也	【第 5 回】 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。
6	中野　達也	【第 6 回】 実習校にお礼状を書く。

授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。

授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう注意深く考えて行動すること。実習校謝礼等　18,000円。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-24（Ｊ）	授業コード	O80750
科目名称	教職実践演習（中･高）			単位数	2.0 単位
英文名称	Teacher Training Practice Seminar (Junior High School and High School)			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	中野　達也			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 16:20～17:50　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	これまでの教職課程で身につけたこと、課題であることを明らかにして、不足している知識や技能等を演習等により補い、定着を図ることにより、教員としての最低限必要な資質能力を身につける。				
到達目標	･教育実習や 3 年時までの活動を通じて身に付けた能力を自覚することができる。 ･教職に就いた際の自らの課題を探求し、不足している知識や技能を学ぶ計画を立てることができる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：第 1 章･第 2 章を読み、ポイントをまとめる。 授業　：第 1 章「教職実践演習とは」、第 2 章「教科等の指導：教育実習のふり返り」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「教職実践演習」という授業の意義についてまとめる
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：第 3 章を読み、ポイントをまとめる。 授業　：第 3 章「教科等の指導：学習指導要領内容」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「教科指導：学習指導要領」についてまとめる
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：第 4 章･第 5 章･第 6 章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 4 章「教科等の指導：学習指導案作成の重要性とその意義」、第 5 章「教科等の指導：学習指導案の作成と授業の展開･工夫」、 第 6 章「教科等の指導：模擬授業」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「学習指導案の作成」についてまとめる
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：第 7 章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 7 章「教科等の指導：道徳教育と特別活動」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「道徳教育及び特別活動」についてまとめる
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：第 8 章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 8 章「生徒理解：子どもの発達の理解」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「子どもの発達」についてまとめる
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：第 9 章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 9 章「9．生徒理解：生徒指導と教育相談」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「生徒指導と教育相談」についてまとめる
7	中野　達也	【第 7 回】第 1 0 章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 10 章「生徒理解：特別支援教育」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「特別支援教育」についてまとめる
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：第 1 1 章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 11 章「学級経営：学級経営のあり方について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「学級経営」についてまとめる

9	中野　達也	【第９回】 予習　：自分の教育実習を振り返り、見学時のポイントをまとめる 授業　：中学校授業見学　※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習　：授業見学について振り返るレポートをまとめる
10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：第１２章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 12 章「社会性や対人関係力：教師のコミュニケーション力?組織の一員として・児童生徒に対して」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「教師のコミュニケーション力」についてまとめる。お礼状を書く
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：第１３章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 13 章「社会性や対人関係力：保護者・地域社会への対応について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「保護者・地域社会への対応」についてまとめる
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：外部講師の講演に備えて、質問事項を考える 授業　：外部講師講演（ディスカッション）　※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は別課題を用意する 復習　：外部講師講演内容・討論内容をまとめる
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：第１４章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 14 章「教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「教師としての使命感・責任感」についてまとめる
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：国際化推進における教師の役目について調べる 授業　：外部講師講演「外国語教育と国際化」（ディスカッション） 復習　：外部講師講演内容・討論内容をまとめる
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：第１５章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 15 章「まとめ：教師の力量とキャリア形成－自己成長の重要性－」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）、後期のまとめ 復習　：教職課程で学んだことを活かし、教師になったときに一番伝えたいことをまとめる

授業開始前学習	今までの教職課程で学んだことを整理しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは、GWSE を活用して個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	「自己成長を目指す教職実践演習テキスト」 原田 恵理子、 森山 賢一著　北樹出版
参考書	その都度紹介する
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）３０%、レポート３０%、定期試験４０%を総合して評価する　。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				◎	○

関連科目	
その他	遅刻、無断欠席は認めない。教育現場を訪問する（交通費各自負担）。 見学校、外部講師の都合により実施日を変更する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。